

# 総務省「四国コンテンツ映像フェスタ 2023」に応募チャレンジ！ 四国の魅力を伝える映像制作プロジェクト

代表者 大野 美奈子（地域マネジメント研究科2年）

## 1. 目的と概要

本プロジェクトは、「2022年度実践型クリエイティブワーク演習」の履修生が、授業で学んだ内容を活用し、映像をつくり実社会に活かしてみたいという思いから始まったものである。

我々は、その思いを形にするために2つの目的を設定した。

1つ目は、地域の魅力を伝える映像づくりを実際に自分たちで体験すること、2つ目は、出来た映像をそのままにするのではなく、コンテストに出品し、公の場で多くの人に視聴してもらい、映像をPRの媒体として活用するためである。

近年、「ブランDEDコンテンツ」として、数分の短い映像の中に価値観や魅力を盛り込み、視聴者の共感を得る映像手法を用いて、地域ブランドをアピールすることが地域活性化や地方創生の文脈でも注目されつつある。

そのため、本プロジェクトでは「ブランDEDコンテンツ」という手法を用いて、視聴者からの理解や共感を得られるように脚本や映像で表現することとした。地域の良いところを研究し映像コンテンツとして残すことで、視聴者が地域の良さに共感し、「行ってみたい!」と感じてもらえるとともに、地元の方にも今住んでいる地域の良さを再発見してもらえることを目指す。

## 2. 実施期間（実施日）

令和5年7月1日から 令和6年2月17日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

本プロジェクトでは、フィールドワークを行った丸亀市塩飽諸島の一つ、「広島」（以下、「讃岐広島」という。）を舞台とすることとした。

讃岐広島は住民150名程度、高齢化率80%を超える過疎高齢化地域であるが、地元の方々が一丸となり、地域活性に取り組む、活力が生まれつつある地域である。我々は、映像コンテンツを通じて讃岐広島の素晴らしさを視聴者に伝えられるよう、脚本や映像で地域の魅力を引き出すことで、地元の熱意を後押ししたいと考えた。

讃岐広島は丸亀港から船で30~40分ほどの距離にある島で、以前は花崗岩の一種である「青木石」の名産地として有名であったが、石材産業の衰退とともに島の産業と人口は失われた。現在は「せとうち石の島」のひとつとして、小豆島等とともに日本遺産に登録されている。長く石材業で成り立っていたことから観光地化に着手され

たばかりであり、手つかずの島の風景が残っている。今後、観光産業も島で成立させるために様々な取り組みがされており、その最たるものは「尾上邸」である。

讃岐広島が属する塩飽諸島近海は海の難所であり、その地理的背景も作用し、近代以前は廻船業が盛んであった。そのひとつ、廻船問屋であった橘屋（尾上家）については、広大な屋敷「尾上邸」が島に現存していたことから、各種寄附を募り、島民が一丸となりそれを復旧させ、現在は宿泊施設として営業を行っている。

本プロジェクトでは、チーム員で幾度も島を訪問し、尾上邸復興に代表される島での活性化の取組や地元民が感じる島の良さなどを調査した。その中で、我々自身が、島の豊かな自然や風景に魅了されることとなった。しかしながら、讃岐広島は、様々な活性化活動がメディア等で取り上げられる機会も増えている中、島の重要な資産である風景やその歴史などを伝えるものが少ないと感じた。

そこで我々は、他のメディアと内容を隔すべく、我々自身が感じた島の懐かしい風景や澄んだ空気感、ゆったりと流れる島時間が伝わるよう、映像コンテンツを作成することとした。

映像では、敢えてストーリー性を排除し、淡々と島の風景を伝えるものとした。そもそも讃岐広島の知名度が高くないことから、地理的位置や青木石、尾上邸の姿など、島のシンボリックなものを映し、ドローンを用いて、視聴者自信が鳥になったような解放感が伝わるよう心掛けた。また、讃岐広島および本島の丁度中間に位置する「園の洲（そののす）」については、知名度の低さもあり、ほぼ映像がないことから、我々のチームが上陸し、おそらく本邦初となるドローン空撮を試みた。

7月に撮影を開始し、9月に至るまで撮影を続行した。その後10月に編集作業を終え、総務省主催『四国コンテンツ映像フェスタ2023』に応募した。

なお、応募にあたっては、地元を無視した映像作品にならないよう、複数の地域の方にチェックをしていただき、正確な数字や島民が伝えたい言葉なども作品に盛り込んだ。

その後、形式審査、WEB投票、審査員審査を経て、2024年2月17日に徳島県にて開催された上映審査会・表彰式に出席した。

上映審査会では、3分の作品が上映され、審査員から「讃岐広島を初めて知った」「青木石の存在など、学びにもなった」「非常に美しい島である」等の嬉しいコメントをいただき、その後の表彰式において、全107作品の中からアマチュア部門・最優秀賞を受賞することができた。

石の島から幻の島が見える!?



(応募動画のサムネイル)

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、まずは映像作品の公開という点で、島の知名度向上に少しでも寄与できたのではないかと考えている。だが、それ以上に、我々自身が島の魅力を自ら探求し、島民の方々と交流の場を得ることで良好な

関係を築くことができ、同時に、「地元の声を聴いて行う地域活性とはどのようなものか」を深く考える機会を得られた。

## 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今回、讃岐広島について調査し、島民との交流を通しながら、まだ一般に知られていない地域の魅力を映像として残し、映像コンテンツとして発信し評価を得られたことは、チーム員一同の強い自信にもなった。チーム内で何度も「映像を通して、視聴者に対して何を伝えたいか」という議論を重ね、チーム内で納得のいく意思決定プロセスを経験することができた。さらに公の場で映像を発表する機会を得られたことで、島の魅力発信に繋がれたと感じられた。

撮影に対しても、事前に予算まとめ、機材準備、スケジュール調整、撮影日の予備日設定など、撮影日当日に効率よく動けるように、実践的な撮影に関するマネジメントも経験できた。撮影当日も円滑にチームワークを発揮することができ、そのおかげで、撮影は時間内に終わり、大きな事故等も無かった。

期日内に作品が応募できるように、編集スケジュール管理も経験でき、大変だったが、有意義な経験ができた。

## 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

今回は、幸運にもほぼ天候に恵まれ、当初の想定を変更することなく全体スケジュールを終える事が出来た。ただし、コンテスト応募を目的としたことから、3分という尺の制限があり、映像素材の多くはまだ日の目を見ていない。

現在は、今回撮影した映像素材やコンテスト受賞作品を地元を活用してもらうべく、地域への作品の譲渡に向け、丸亀市側と協議を進めている。また、受賞作品の英語版を作成できればインバウンド観光客に見せることもできるとの意見もあることから、英語版の制作を含め協議を進めているところである。

今回は、コンテストに出品を行ったが、我々にとってはコンテストで受賞することは手段にすぎず、制作した映像コンテンツでどのように地域を後押しするかが本丸だと感じている。今後も地域に関わり続けながら、地域活性を支援し続けたい。

## 7. 実施メンバー

代表者 大野 美奈子（地域マネジメント研究科 2023年度2年生）

構成員 山内秀則、井上郷平、久保佳美、菰渕貴彦、近田弘昭、田原宏一、成見翠、三島満月、三善那津希

（以上、大学院地域マネジメント研究科 2023年度2年生）

石井賢太、富田和希

（以上、同研究科 2022年度修了生）

### 8. 執行経費内訳書

配分予算額		181,680円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
船賃			13,920	
車両運搬費			20,920	フェリー積載
宿泊費			55,000	
高速代			5,070	授賞式参加費
ガソリン代・駐車場代			6,460	〃
鉄道運賃			8,230	〃
委託費			24,200	園の洲渡航費
委託費			39,480	ドローン撮影費
合計			173,280	